

KOCHI ROTARY CLUB

2020
2021

SINCE 1937



ロータリーは機会の扉を開く

2020-21年度 RIテーマ

週報



Weekly report 第3437回 2020年8月25日 2020年9月8日発行

● 会長挨拶

皆さんこんにちは。暑い、暑いといいながら季節は少しずつ変化しているようです。一昨日は暦の上で処暑、昨日は志那祢様、私の住む長浜ではツクツクボウシの鳴き声が目立ってきましたし、トンボも見られるようになりました。



さて、先週の例会では尾木謙三先輩に在籍50年の表彰状をお渡しすることができ、私にとりまして、とても清々しく光栄な経験をさせていただきました。そして、急をお願いをいたしましたスピーチでは、出席の重要性和ロータリアンがいかに選ばれた誇らしい立場であるかについてお話させていただきました。

また帰り道では、尾木さんが入会された50年前、昭和生まれはたったの7人、回りはみんな明治、大正生まれの大先輩ばかりだった。そこで、若手7人は「昭和七人衆」と称して励ましあっていたそうです。そして、本日もお元気に

例会に出席して下さっていますが、それが健康管理にも役立っているとの嬉しいお話を伺いました。

ところで、クラブ計画書を見ていますと当クラブでは在籍10年以上の方が52%と過半数を超え、それがクラブの安心感と安定感につながっています。一方、この安定をベースにして、さらなる発展や将来性を考えたとき、新会員の方もぜひ迎えたいと思います。幸い当クラブには大企業の支店長さん方が入会して、フレッシュな風を送り込んでくれています。それに加えて、尾木さんの「昭和七人衆」ではありませんが、地元の有能な方々が入会してくださると、さらに明るい未来が開けて来るのではないかと期待しています。どうか、皆様のご協力をお願いいたします。

本日の卓話は、北川村の鈴木副村長さんによる「世界に2つしかないモネの庭」です。お話がとても楽しみです。後ほどどうかよろしく願いいたします。ありがとうございました。



■本日のプログラム [9月8日]

会員スピーチ
(株)ヒワサキ 代表取締役社長
日和崎 守 会員
「私の自己紹介」

会	長	中	村	裕	司
副	会	入	交	章	二
幹	事	関		雅	文
副	幹	中	澤	清	一
会	報	隅	田	和	稔
責	任				

● **ロータリーソング** 「四つのテスト」



◆ **米山記念奨学会より感謝状**

中村裕司会長



● **幹事報告**

- ・来週、9月1日はロータリー休日です。
- ・第2回クラブ協議会を9月25日のガバナー補佐訪問例会終了後に行います。欠席する委員長は代理を構えていただくようお願いします。



● **ゲストスピーチ**

世界に2つしかないモネの庭

北川村 副村長 鈴木 康正 氏

私はもともと県庁の人間ですが、縁あって2015年12月から北川村に移り住んで、今仕事をさせていただいています。

北川村は人口1200人、高齢化率が高く、ユズの村で、県内のシェアは大体15%、全国でも8%が北川村のユズです。平成24年、初めて日本からフランスにユズの成果玉が出荷されましたが、これは北川村産です。



フランスのジヴェルニーに本家のモネの庭があります。では、なぜ北川村に庭ができたか。上村村長が、よくインタビューなどで「たまたまですよ」と答えています。本当にたまたま、偶然が重なったことです。

北川村は、基幹産業であるユズをいかに消費拡大して産業振興に結び付けるかといった視点で、平成の初め、ユズのワイナリーを山梨から誘致する計画が立ち上がりました。しかし、1996年バブルの崩壊で、山梨の企業から進出白紙撤回という知らせが届き、事業の再構築を余儀なくされました。ただ、予定されていた土地は既に造成され、村の予算7億円近くを既に費やしてしまっていたので、何とかこの土地を活用できないかと検討プロジェクトチームを結

成。その中心人物が今の上村誠村長でした。

プロジェクトチームの中で、国の地域活性化アドバイザー、県庁の担当部局等々、いろいろ話をしている中で挙がってきたのが、もともとはワインの誘致から始まった。ワインといえばフランス、フランスといえば芸術文化。その中で印象派のクロード・モネは日本の浮世絵にも非常に影響を受けており、日本の印象、光というものを庭づくりに取り入れたといったコンセプトは、北川村の自然とマッチするのではないかと。こじつけみたいなのところはありませんが、そんな発想から始まったということです。

しかし、いくら理想を掲げても実際に行ってみないとどんな庭かも分からない。正面から門を叩こうということで1996年、プロジェクト職員がフランスに渡航。もちろん、つてはアポイントも取れないので、まずは見てこようと。村長曰く「庭の規模や手入れが行き届いていることに感動した。何とか責任者と話をさせてもらえないか、庭のポリスマンに尋ねたけど、今はないので出直してほしいと言われ、名刺を置いて帰ってきた」そうです。

パリ市内で通訳を探して、再度訪問。運良く庭園責任者のバエさんに会うことができ、この庭をぜひ北川村でも造りたいと率直に訴えたところ、バエさんから、協力しましょうと図面を渡されたそうです。ただ、一庭園責任者の了解は得ても、管理しているクロード・モネ財団のトップの了解



がなければできないわけです。当時、世界中からモネの庭を造りたいという話があったそうですが、バエさんの後押しもあって、ジヴェルニーに似た小さい村である北川村が頑張っていることに協力しましょうと、大きな決断をいただいて第一歩が踏み出されました。

バエさんは、1年に1回ずつ季節を変えて来村、アドバイスや指導をしていただきました。村民向けのガーデニング講習、村民運動会にも出て、地域と交流をして徐々に北川村に対する理解を深めていただきました。実際にモネが苗を仕入れていた水生植物園に北川村の職員を連れていってくださって、苗を購入できたといったこともあります。

1999年、当時の寺尾村長がフランスに行ったとき、フランスの美術界の最高機関であるアカデミー・デ・ボザールの最高責任者のドートリブさんとの面談が叶いました。そして、「北川村モネの庭 マルモットン」という名前が与えられました。ドートリブさんは、アカデミー・デ・ボザールの最高責任者であると同時に、モネの作品を一番多く収蔵しているパリのマルモットン美術館の館長も兼ねていたことから、この名前を付けていただきました。

2000年4月19日開園。当日はドートリブさんも来ていただき、オープニングで「ジヴェルニーには本物の絵は展示していません。しかし、庭は彼が残した偉大な芸術である。この北川村の庭も本物の庭を大切に育ててください」という言葉を残されました。

開園以降もフランスとの交流は続いて、北川村のスタッフをジヴェルニーに研修で派遣したり、ドートリブさんの後任であるマルモットン美術館長のグラニエツさんから、ご自身が制作された銅版画を寄贈していただいたりしています。2011年から2年間は、村長以下、村の議員がフランスに行き交流をしています。さらに、北川村のモネの庭の入園券で、ジヴェルニーにも入園できるという共通パスポートの許可もいただきました。

2015年、北川村の庭園責任者の川上が、フランスの芸術文化勲章のシュヴァリエを受章。日本人では、漫画家の松本零士さん、歌舞伎役者の市川海老蔵さんといった錚々たるメンバーを受章しています。2018年、開園して18

年目、改めてクロード・モネ財団と村が交流協定を結ぶことができ、正式にフランス側と協定を結んで文書に残ったということです。

ジヴェルニーの庭は平地に造られているのが特徴で、配置は北川村と大きく違います。ジヴェルニーの人口は北川村の半分、非常に小さい村です。庭が一般公開されたのが1980年、今年で40年を迎えます。来園者数は、年間60万人、北川村は7万人という桁違いのお客さんが来ています。

気候や土壌の違いがあるかもしれませんが、北川村でどうしても復元できないのが柳です。庭師も何回かチャレンジしたのですが、難しいそうです。逆に、フランスでモネが咲かそうとしてなかなか咲かすことができなかつた熱帯性の青いスイレン。北川村では、6月下旬から10月ぐらいまで見ることができます。また、ブルービーというオミナエシの花に寄ってくる青いハチが、同じく今の時季には見られて、このハチを見ると幸せが来ると言われています。

11月から12月にかけて、紅葉が見られますし、週末を中心に夜の庭で「光のフェスタ」を行っています。3月初旬には、モネがオランダの景色を描いた「サッセンハイムの丘」を早咲きのチューリップで再現して、花の少ない春先の目玉になっています。

今年、20周年を記念して新たな庭を開園しました。モネが43歳のときノワールと旅をして、色彩の強さに感動して、ジヴェルニーに庭を造るきっかけになったという、北イタリアのボルディゲラの風景を再現した「ボルディゲラの庭」です。9月12日には、1日限りのキャンドルナイトのイベントを行います。皆さんも、機会があれば北川村にお越しただければと思います。



9月のお祝い

(会員誕生日)	尾木 謙三	土本 昭雄	森田 啓介	藤田 洋子	各会員
(配偶者誕生日)	海治 教子	宮地 美帆	宮地 憲一	亥角 理絵	眞田久美子
	笠井 幸恵	竹内 貴世	土本 雅子	佐竹 真紀	各会員配偶者
(結婚記念日)	松岡 宣明	各会員			

◇ 例 会 変 更 ◇

高知南RC	9月10日	月見例会(阪)	高知北RC	9月14日	月見夜間例会(三)
高知東RC	9月16日	ロータリー休日(阪)	高知西RC	9月18日	創立記念夜間例会(三)
高知中央RC	9月24日	月見夜間例会(城)			

※例会場ホテル：(三)…三翠園 (城)…城西館 (阪)…ザクラウンパレス新阪急高知 (旭)…ホテル日航高知旭ロイヤル

 **ニコニコ箱**

- 杉本 芙美子 6、7年前の米山奨学生のワン・ジュンユンさんが九州大学で教鞭をとっていましたが、9月よりイギリスで3番目に古い国立大学へ移ることになりました。出発前に高知へ挨拶に来るつもりでしたが、コロナで移動ができないので、高知クラブの皆さまによりしくお伝えくださいとメールが届きましたので、お知らせと、ワンさんのますますの活躍を祈ってニコニコです。
- 川崎 敦子 残暑お見舞い申し上げます。今年は夏祭りや花火大会もなく、夏を楽しむ計画もありませんでしたが、お盆休み中の家内は、小さい喜びのニュースで溢れました。夏のご挨拶を失礼しましたので、代わりに皆さまのご健勝をお祈り申し上げ、ニコニコさせていただきます。
- 日和崎 守 妻の誕生日に大変きれいなお花をありがとうございました。食卓に飾り、毎日妻と楽しませてもらっています。
- 竹下 篤範 妻の誕生日に花のプレゼントを届けていただきありがとうございました。
- 西山 彰一 先般7月31日、美しいお花、家内の誕生日にいただきありがとうございました。

◎ **親睦委員会の懇親会**

9月2日今年度初めての親睦委員会の懇親会を行いました。
 中村会長、関幹事にもご参加頂き、新入会員さんとも親睦を深める事ができました。
 ちょうど台風の迫るなか途中はまるで青春時代のキャンプの様相でしたが思い出にのこる楽しい会となりました。



◇ 出 席 率 ◇					
	総数	出席	欠席	メイキャップ	出席率
8月25日	(-10)86	57	14	5	82%
8月11日	ロータリー休日				

● **累計額** [8月25日現在]

ニコニコ箱	172,000円	ロータリー <small>さんさん</small> 燦燦基金	50,839円	ポリオ募金	44,100円
-------	----------	--------------------------------	---------	-------	---------

■ **次週のプログラム** [9月15日]

ゲストスピーチ
 四国開発建設(株) 代表取締役専務
 松木 裕之氏
 『「踏切」あれこれ』

創 立 **昭和12年10月**
 例 会 日 **火曜日 12:30~13:30**
 例 会 場 **三翠園ホテル TEL(822)0131**
 事 務 局 **高知市本町3丁目2-15 高知新聞放送会館6階**
TEL(824)8660 FAX(824)2529
 E-mail **shinairc@joy.ocn.ne.jp**
 HPアドレス **http://www.221.ne.jp/kochirc/**